

令和2年度市長出前講座

1. 日 時： 令和2年11月13日（金） 10時00分～11時20分
2. 場 所： 森のようちえんはっぴー事務所
3. 出席者： 森のようちえんはっぴー在園児・卒園児保護者ほか 計20名
市側：市長、子ども教育課 宇山課長、唐尼係長
秘書広報課 佐久間課長補佐
4. テーマ： 子育て世代の移住促進と幼児教育について
5. 概 要： 市長講話

本市では子育て支援について、重点的に取り組んでおり、総合戦略でも若い方々の世代の人口を増やしていくことを大きな目標に掲げています。

本市の人口動態について説明させていただくと、人口には亡くなった方と出生された方との増減差となる自然増減があり、それ以外には転入・転出など社会人口の移動があります。平成26年から令和元年の5年間の累計になりますが、本市の社会人口の移動を各年代でいいますと、まず10代、20代は、この5年間で1,200人ほど減っています。どうしてもこの年代は高校を卒業して、大学や専門学校など外に出ていく方が圧倒的に多いためマイナスが大きいのですが、30代からは逆に転入で増えてきています。30代では42人、40代では65人、50代では125人増えています。

このように30代以降の転入については、とてもありがたい状況であり目指している方向でもあるので、今後も伸ばしていきたいと考えています。

10代、20代の減少に関しては、この減少幅を少しでも抑えたいと考えていますが難しい状況となっています。

市では移住定住をしてくださる若い方々を増やす施策として、移住される方が住宅を持とうとした場合の住宅取得奨励のための補助制度があり、最高額では子育て世代で1件当たり200万円の支援をさせていただいております。

また、転入してきた方が新たに事業を行うため事業所などを開設する場合には、起業家支援として最大100万円の支援をさせていただいており、少しでも若い世代の方々に定住していただこうと進めています。

教育に関しては、他市に後れを取らないレベルだと自負しております。特に弱者の方々や格差に対する支援が一番大きな特徴であり、また力を入れています。

幼児教育として力を入れているものは特別支援のサポートになります。

保育所、幼稚園、預り保育の現場では特別支援が必要とされるご家庭、お子様方がおりますので、特別支援員を人数的に多く配置させていただきサポートさせていただいています。もちろん現場だけでケアさせていただいているだけではなく、家庭の抱えている課題や子育てに関する相談など不安を解消するための支援とお手伝いなどにも力を入れています。また、特別支援ばかりではなく、乳児から幼児、小学校というように支援が連動して繋がっていく体制を組んでいます。

小学校・中学校に関しては、市独自に教育相談センターを教育委員会内に立ち上げ、虐待やネグレスト、引きこもり、不登校などの問題に対処するため、各家庭の問題をいち早く察知して手を差し伸べていき、少しでも学校、社会に参画できるようなお手伝いをさせていただき市独自の業務を行っています。それ以外にも「子育て支援センターほのぼの」を通じた、各家庭の幼児に対する問題・課題の解決、また、父兄の方々の交流による子育てのサポートもしています。ここでは専門的な方々を月に何度かお願いし市の職員だけではお答えできないような専門的な解決方法についても対応できる体制をとらせていただいています。また、市では南房総学の推進を教育目標のひとつとして掲げています。南房総で生まれ育った子供たちが、南房総の良さ、地域にある歴史や文化、自然体験を通じた南房総ならではの故郷の良さというものを子供たち自身が経験し理解し育っていくことが大事であろうということで、各学校現場の中で南房総学に取り組んでおり、主に、農業体験を行ったり、地域を学ぶということで、それぞれ旧町村単位で歴史や文化を学んだりしています。

次に、市の大きな目標のひとつとして、学力の向上を掲げています。市では小学校の高学年を対象に、習い事の月謝を各家庭の経済的な状況に応じて一カ月当たり最大で7,000円、少なくとも1,000円の月謝に係る支援をさせていただいており、多くのご家庭にご利用いただいています。弱者や、各家庭の経済力の格差によって子供たちの学ぶ機会が違ってきてしまい、多くを学べる子とそうでない子では将来人生において大きな影響がでてきてしまうと言われており、すべての子供たちに学ぶ機会、自分たちが何かをやりたいというチャンスを与えてあげたいという思いで応援しています。

また、南房総市は100%米飯給食ということで取り組んでおり、調理師や栄養士の方々も知恵を絞りながら、おいしいものを子供たちに食べてもらいたいという気持ちでがんばっています。食材はできる限り地域で採れた農産物を使おうと思っており、地域の農業者や漁業者の方々の努力だとか、農業や漁業の果たしている役割や重要性なども給食を通じて、子供たちに理解し知ってもらいたいという思いも含めた米飯給食になります。

今後の総合戦略の中に位置付けられている取り組みとして、自然体験を取り入れていこうと考えており、この点に関しては、「森のようちえんはっぴー」さんとも連携を図っていけたらと思っていますし、ノウハウをご提供いただければありがたいと思っています。また、「森のようちえんはっぴー」さんばかりではなく、自然体験の活動をしているNPOの方々や千葉自然学校など、そういった団体とも教育という面で連携を深めながら自然体験活動を取り入れていきたいと考えています。

色々なことが教育の分野の中で大事だといわれていますが、幼少期に文化活動に触れることや文化的な教養を身に着けること、自然体験など様々な体験を積んでいくことが、脳科学的に脳の発達にとっても重要であり、単に勉強だけを詰め込んでいけば、しっかりと成長していくかといえれば決してそうではなく、勉強も大事だけれど、様々な体験を積んでいくことが幼少期には大事なことだということが立証され

てきています。本市の教育現場でもこのことを十分に理解しており、勉強と併せた体験活動をこれからも重視していきたいと思っています。

最後に、全国的な傾向かもしれませんが、教育相談センターで関わらせていただくような虐待や不登校の問題が増えてきています。市としては、この問題をどうサポートしていくか、様々な面で協議をおこなっており、見過ごす訳にはいかないため、対策を強化していかなければならないと考えています。また、特別に支援をさせていただく家庭も残念ながら増えてきている状況です。そうした部分をサポートし続ける体制を今後も作っていかなければならないと考えています。